

公務員試験合格体験記

法学部法律学科 J201342 玉手杏

○合格した職種

- ・ 国税専門官（最終合格、内定）

○その他受験した職種

- ・ 国家総合職（法律区分）（最終合格、内定なし）
- ・ 国家一般職（最終合格、内定なし）
- ・ 裁判所事務官（一般職）（最終合格）
- ・ 北海道庁（一般行政）（一次合格）

○大学4年間のうち、各学年で公務員試験に向けてどのような勉強をしていたか

・1年次

1年生の時は、新型コロナウイルス感染症流行1年目だったこともあり、そもそも何をしたいのかもわからず、家に引きこもってばかりだったと思います。公務員試験対策としての勉強はほとんどしていませんでしたが、思い返すと法律系の講義はまじめに受けていたと思いますし、理数系の教養科目を選択したり、苦手な英語の勉強を自主的にしたりと公務員試験に役立つ勉強は結果的にしていました。

勉強ではありませんが、入学時から公務員志望であった一方、明確な職種の希望は一切考えていなかったため、学内の公務員説明会には、1年生の時からほぼ毎年参加していたと思います。

・2年次

前期後期ともに学部専門科目の公務員対策講義を受講していました。他には特に公務員試験対策として取り組んでいたことはなく、どちらかというと法学検定ベーシック・スタンダードや宅地建物取引士資格試験に向けた勉強をしていました。また、2年から3年にかけてほぼ週1で先生に民法の勉強会を開いていただき、ここでの学びのおかげで民法が公務員試験で安定して点数の取れる科目になったと思います。

他には2月3月に、税務署でアルバイトをしたり、札幌国税局のインターンシップに参加しました。この時期からぼんやりと国税専門官が第一志望になってきたと思います。

・3年次

5月からLECの公務員講座を受講し始めました。この後の勉強は、基本的に講座の進みに沿って、講義を受けて問題を解くという方法を繰り返していました。しかし、数的推理や

判断推理、民法に関しては、得意科目だったため、自力で早めに勉強を進められていたかと思えます。

この年の春ごろになぜか色々できる気になっていたのか、焦っていたのか、恐らくその両方なのですが、民間の就活イベントやインターンシップに参加しまくったり、秋にかけて宅地建物取引士試験を受けたり、自動車免許をとったりと、なかなかハードな日程を過ごしていました。

・4年次

勉強に関してはラストスパートだったので、模試と本試の問題を解きなおしたり、時事などの直前暗記で点数が取れそうな科目を重点的に勉強していました。正直なところ1次対策より、面接カード作成や面接対策の方にかなり比重が傾いていたと思います。

メンタル維持のため、何かがあってもなくても、キャリア支援課やLECの職員さんに相談したり、雑談しに行っていました。大変お世話になりました。

○公務員試験を受ける上で役に立った大学の講義

・公務員対策特別演習A～D

数的処理や日本史など教養科目対策にととても良いと思います。私自身は3年次にどうしても受けない講義の時間と被ってしまったため、公務員対策特別演習Eからは受講していませんが、基礎からしっかりと学ぶために受講することをお勧めします。

・キャリアスキル基礎A・B/応用A

基礎/応用Aは、公務員試験やSPIの数的数理に近い問題が勉強できました。1年次に数学を基礎から学び直すのに、よかったです。基礎Bは、同じく英語を学び直す内容でした（英語が苦手なので応用Bを受講するのは怖気づきました…笑）。

・法職特別演習（職業基礎力）A～D

読解力など国語力を身につけるのに役立ちます。教養の国語はもちろん、個人的には読解力があると法律系の科目の勉強がスムーズになると思います。

・法学スキル基礎/応用

それぞれ法検ベーシック/スタンダードの対策講義です。専門科目ある人は受講、というか受検しておいた方がいいかと思います。

・職業と人生A～D等キャリア系の講義

私は、自分ではやることなすこと締切直前まで後回しにしてしまう性格なので、就職活動のペースを崩さないために受けていました。民間の話が多くはなりますが、もちろん公務員にも役立てられる内容ばかりなので、おすすめです。

・憲法、民法、行政法等法律系の講義

公務員講座を受ける前に大学の講義で法律系の講義を受けておくと、かなりアドバンテージになると思います。専門試験がある人は、なるべく受けておくとよいかと思います。

ちなみに私は例に挙げた講義に加えて、国税専門官対策に会社法と商法、裁判所事務官対策に刑法の講義も受けていました。

○勉強が辛い時期があったか。またそれをどう乗り越えたか

まず、私は、勉強自体は嫌いではないのですが、基本的に「毎日コツコツ」「試験勉強をする」ということ自体に苦手意識が強く、自分一人では机に向かうまでに1か月以上かかるようなタイプなので、講義や講座、勉強会など、とにかく講座を申し込んだり、誰かと約束することで、さらにそのために予習復習するようになる…というような方法で勉強する時間を確保していました。

上記のように対策を講じないと基本的に試験勉強に対しては逃げの姿勢で、つらくなると勉強どころか一切何もしたくなってしまう性格を自覚していたので、つらくなる前にゲームや漫画、誰かと遊びに行ったりして、都度適度にストレス発散をしてました。しかし、「人との約束は守る」というところにラインを引いて、先生に教えてもらう講義や講座、人と一緒に約束した勉強時間だけは、どれだけ勉強したくなくても出席すると決めることで、最低限の勉強は続けられるようにしていました。

○平均して1日何時間くらい勉強したか。また、筆記試験前は1日何時間くらい勉強したか

似たような内容の講義や講座を様々受けることで繰り返し勉強していたおり、さらに勉強する時期はガッツリして、しない時期はほとんどしないので、講義・講座外の勉強時間は平均すると2～3時間ほどだったと思います。

直前期もアルバイトや面接対策などの影響でそこまで、勉強時間は増えず、平均で3～4時間ほどでした。代わりに、直前期の2月～4月は講座や模試がそれまでの倍以上になっていたと思います。

○役に立った教材（具体的な書名を挙げてもOKです）

- ・過去問解きまくり<LEC>
- ・宅建や行政書士の問題集（個人的に資格試験に挑戦したかったので、民法はこちらで勉強しました）

○大学時代もっと取り組んでおけばよかった、勉強しておけばよかったと思うこと

公務員試験のために何かしておけばよかったということは、第一志望に受かっているので特にはないのですが、個人的には、英語の苦手克服ができなかったことと、簿記・会計学の勉強があまりできなかったことが心残りです。国税専門官の仕事上、簿記知識が必須なので、大学生のうちにもっと勉強できていればよかったなと思います。

○面接の内容

・国家総合職/一般職（人事院面接）

2次試験の人事院面接は、採用したい人を選ぶ面接ではなく、採用させられない人を落とすタイプの面接だそうです。そのため、きちんと面接練習ができていれば、人事院面接は大丈夫だと思います。面接官が自分の行きたい省庁の人だとは限らないため、この面接で「この省庁に行きたいです！」と、熱心にアピールする必要は特にないはずです。質問内容は、冒頭の雑談が終われば、面接カードの内容を順に深堀されていくだけでした。専門用語やマイナーな言葉は、意味を問われるので、簡潔に答えられるようにしておくとういいます。

面接内容には関係ありませんが、総合職・一般職どちらも受験者数が多く、人によっては待ち時間がかなり長くなるため、集合時間が昼前後の場合は、事前にしっかりご飯を食べていった方がよいと思います。

・裁判所事務官

同じ集合時間の受験生は数人と少数のため、拘束時間は長くありませんでした。手荷物検査があるので、他の面接よりも時間に余裕をもって向かった方がよいかと思います。

質問は、事務官を志望した理由をはじめ、面接カードに書いてあることの深堀が多いですが、カードの枠が大きいので、エピソードを詳細に書いた結果、深堀する点がなく、別のエピソードを求められる…ということがありました。自己PRや主張したいところは、最低でも2つ以上のエピソードを用意していくことをお勧めします。他の特色としては、傍聴の有無や交通違反歴について聞かれました。裁判所を受けるならば、傍聴は直前期になる前に必ず行って（できれば複数回）、どのような事件を傍聴したかや、印象に残ったことを答えられるようにしておきましょう。

・国税専門官

性格検査・健康診断？検査？・面接とあり、人数も多いので、かなり長丁場です。また、健診の結果が出るまでは帰宅できないので、面接が早めに終わってもしばらく待機しました。

私は特に面接カード以外の深堀質問はされなかったと思います。強いて言えば簿記の取得状況を聞かれたかもしれないくらいです。そうというのも、確定申告期間に税務署でアルバイトしましたと面接カードに書いていたので、そちらの深堀りで時間が潰れた印象です。

本命ということで非常に緊張していたのですが、面接官の方々がとても話しやすい雰囲気を作ってくださいました。最後に自己PRする時間までいただいて、楽しく面接させていただきました。

・北海道庁（面接は落ちたので参考までに）

まず、面接の3か月ほど前に面接カードを作成していたので、他の面接があったこともあり、面接対策はカードに書いた内容を思い出すところから始めました。質問については、特にやりたい仕事について具体的に求められるので、答えられるように用意しておく必要があります。また、長所・短所を聞かれることがあるので、エピソードを含めて答えられるよ

うにした方がいいと思います。他には、転勤・移動についてどう思っているかなどや大学時代の経験について深堀されます。

さらに、他の公務員や民間と併願している場合、他のところの現在の就活状況と、なぜ道庁が第一志望なのかという問いに明確に答えられる必要があるので、準備しておくことをお勧めします。

○面接対策としてやっておいた方がいいと感じたこと

当たり前ですが、面接練習は何度でもした方がいいです。声を出して、できれば誰かに面接官をしてもらってやった方がいいです。面接では、スラスラ暗記したことを話すのではなく、言葉のキャッチボールをすることが何より大切だと思います。キーワードだけ拾って反射で暗記内容を話すと、会話にならないですし、緊張しやすい人ほど、少しひねった質問をされただけで、暗記内容が飛んで答えられなくなるかと思っています。

私は、かなり緊張しやすいので、話したいエピソードだけを覚えて、話し方は質問に合わせてその場で思いついた言葉を話すようにしたり、本命前に別の面接をやることで、本番の空気感に慣れるようにすることで対策しました。

あとは、面接練習・面接カード作成の前段階として、大学生活でのエピソード集めは重要だと思います。大学生ならではの活動だったり、受験先と関係のある活動を試してみたり、本命の説明会は手当たり次第にすべて参加してみたりすると、面接で印象に残ったり、人事の方と顔見知りになれたりします(私は人事の方と知り合いになることでも、緊張しにくい場づくりをしていました)。

○官庁訪問先

- ・国家総合職→国税庁、法務省
- ・国家一般職→札幌法務局、旭川、函館、釧路の各地方方法務局、及び各地方検察庁(計8か所)

官庁訪問は、なぜその省庁に行きたいのかや、どれだけ行きたいかの熱意をしつこいほど伝えるべきだったのかなと反省しています。そのために業務内容の把握等をもっとしておけばよかったと思います。

○その他公務員合格のために大事だと思ったこと

①完璧を求めすぎない

公務員試験の勉強量は膨大ですし、基準点以上をとることができれば、1次試験突破はできます。そのため、ある程度勉強して自分の得意不得意がわかったら、問題数の多い分野を除き、得意を伸ばして不得意を捨てるというのも有効だと思います(もちろん最初から捨て

てしまうのはお勧めしませんが)。

また、面接においても完璧を求めすぎると、間違えてはいけないプレッシャーから空回りしてしまうこともあるので、面接官と会話することを楽しむくらいの心持ちで良いのではないかと思います。

②人に相談したり、人と話すこと

就職期間中は特に、些細なことでも、分からなかったり不安に思ったら、すぐ LEC やキャリア支援課の職員さんなどに相談したほうが良いと思います。後回しにしたり、放っておくと、不安を抱えたまま、試験や面接本番を迎えることになったり、失敗してから後悔したりすることになるので、相談は大事だと思います。

人に相談したり、話を聞いてもらうことで、精神的にも安定しますし、自分のことを客観的に見やすくなるのではないかと個人的には思っています。私は、特に何か相談があるという訳ではないときでも、キャリア支援課や LEC へ行って話を聞いてもらっていました。

○就活についてのアドバイス、最後に後輩たちへメッセージ

もし、明確にどこに行きたいかは決まっていなかったり、第一志望はあるけど併願先が決まっていなかったりという人は、少しでも興味があれば、とりあえず応募してみるということも大事だと思います。試験や内定が遅い割には、意外と申し込みの締め切りは早いというところもありますし、受けたいと思ったときには締め切りが過ぎていたなんてことになると非常にもったいないと思います。私も申し込んだけれど、1次試験すら行かなかったなんていうこともありましたが（なお、受験辞退も連絡が必要な自治体等がありますので、確認して非礼はないようにしましょう）。

また、公務員の就職活動は民間と比べてどうしても遅いですし、職種によっては公務員の中でも遅かったりするため、周囲の人たちが内定を勝ち取っているのを見ると、焦ってしまうこともあるかもしれません。私は、道庁の2次試験に落ちた時点で、内定が1つもなかったため、滅茶苦茶焦りましたし、国税の結果が発表されるまで、就職活動がほぼ1からやり直しになるのかと正直生きた心地がしませんでした。そんな時こそ、職員さんでも親でも先生でも友人でもいいので、相談したり話を聞いてもらうとよいと思います。少しでも冷静になれるし、話すことでちょっとは心が軽くなって、次へ切り替えがしやすくなるかもしれません。

就職活動は、焦りや不安に加え、スケジュール管理や体調管理がなかなか大変だとは思いますが、しんどい時は息抜きもしながら自分なりのペース・やり方で、がんばってください！ 応援しています！